

志賀原子力発電所の燃料健全性に関する 測定データの公開について

平成22年1月13日
北陸電力株式会社

当社は、志賀原子力発電所の燃料の健全性に関する測定データを、公開することとしましたので、お知らせいたします。

現在当社は、モニタリングポスト、排気筒および放水口における環境放射線データを公開しています。

このたび、原子力発電所に関する情報の透明性向上に向けた取り組みの一環として、新たに燃料の健全性に関する測定データを、ホームページ上で公開することとしました。

[公開内容]

原子炉水中のよう素131濃度¹（週1回の測定データ）

蒸気式空気抽出器排ガスモニタ値²（毎日の測定データ）

[更新頻度]

毎週1回 水曜日24時（休日の場合は翌営業日）

[公開開始]

本日（1月13日）24時より

以上

添付資料：公開データ概要図

1 原子炉水中のよう素131濃度

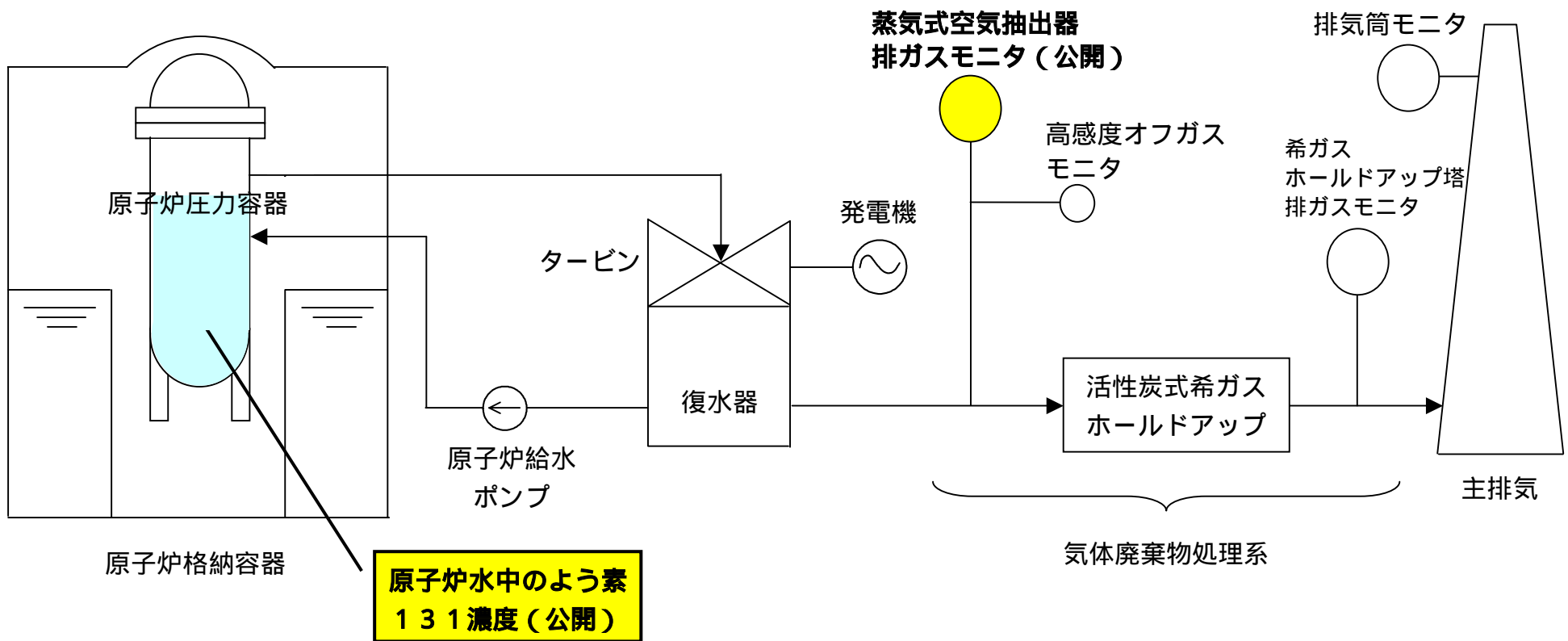
よう素131は、ウランの核分裂反応により生成する放射性物質で、燃料棒に微小な穴が発生した場合、燃料棒から原子炉水中に漏れ出てきます。このため、原子炉水中のよう素131を測定することで、燃料棒に微小な穴が発生したことを早期に検知することができます。

なお、よう素131は、原子炉水の浄化装置で除去されるため、通常の運転状態においては外部に放射能の影響はありません。

2 蒸気式空気抽出器排ガスモニタ値

蒸気式空気抽出器排ガスモニタとは、気体廃棄物処理系において排ガスの放射線を連続的に監視している測定器です。燃料棒に微小な穴が発生した場合、燃料棒から気体状の放射性物質が漏れ出るため、この値を監視することにより、燃料棒に微小な穴が発生したことを早期に検知することができます。

なお、気体状の放射性物質は、気体廃棄物処理系で十分減衰されるため、通常の運転状態においては外部に放射能の影響はありません。



公開データ概要図 (志賀原子力発電所 2号機の場合)